

授業科目の概要				
(看護学研究科 看護学専攻(博士前期課程))				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容		備考
共通科目	共通必修科目	看護理論	(概要) 看護の理論形成が専門職看護の基盤であることを理解し、既存の看護哲学、看護概念モデル(適応・セルフケア)、や諸理論(コンフォート、ケアリング、ヘルスプロモーション等)を理解し、これらの理論が自らの看護現象を説明でき、検証レベルや看護実践の貢献の観点からクリティークし学修する。	オムニ バス方 式
		看護学研究方法論Ⅰ	(概要) 看護における研究の意義と特徴を理解し、文献検討、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮、研究計画書、学術論文の書き方などの一連の研究プロセスを学習する。	オムニ バス方 式
		看護学研究方法論Ⅱ	(概要) 基本的な研究方法である質的研究と量的研究の特徴とその方法を学習する。	オムニ バス方 式
	共通選択科目	沖縄のケアリング文化	(概要) 沖縄の地理的・歴史的背景を踏まえ、沖縄の文化として脈々と受け継がれてきたケアリングの在り様を探究し、沖縄の生活や文化に根ざしたケアリングの要素を、多角的、学際的側面から捉えることを試みる。	オムニ バス方 式
		看護教育学	(概要) 教育学、および看護教育学の理論を学習し、看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育に携わる看護職者が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を養う。	オムニ バス方 式
		看護倫理学	(概要) 看護における倫理的問題を解決できる能力を養うために、看護専門職に必要な看護倫理の基礎的知識と倫理的思考方法について事例を通して学ぶ。	
		看護管理学	(概要) 保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。	オムニ バス方 式
		コンサルテーション論	(概要) 保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師として	

共通科目	共通選択科目	コンサルテーション論	の自己研鑽のあり方を学ぶ。	
		ヘルスプロモーション論	(概要) ヘルスプロモーション・ウェルネス理念の起こりと歴史的背景、健康観についての歴史的変遷、健康政策への活用と評価の視点を講じ、ヘルスプロモーション・ウェルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。さらに、運動生理学の観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究する。これらの基礎理論を用いて実際の看護の場におけるヘルスプロモーションを探究する。	
		包括的健康アセスメント	(概要) 看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント(MSE: Mental Status Examination)、看護診断を統合した講義によって習得する。	オムニバス方式
		健康栄養学	(概要) 現在の日本人の死因の約3分の2は生活習慣病によるものであると言われている。生活習慣病の予防には、適切な食事量や食習慣、定期的な身体活動が重要となってくる。本講義では生活習慣病の予防、特に肥満の予防のための運動・食事の取り方を中心に講義を行う。その際に、食事と運動と休養のタイミングを考慮した時間栄養学の考えを取り入れて検討を行う。また、健康や栄養に関する情報を判断し、活用する能力(情報リテラシー)を養い、根拠に基づいた栄養学的知識の獲得を目指す。さらに得られた栄養学の知識をいかに実践につなげるかという行動科学の点についても講義を行う。	
		病態生理学	(概要) この授業では、臨床医学で問題となっている各種疾病を教材として、病態生理学に根拠を置いて進められている治療について学ぶことによって、臨床看護の世界で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。 すなわち自ら論理的な学習ができ、かつ知識が乏しいがゆえに不安を抱える患者やその家族が正しく病気の成り立ちを知り、判断できるよう適切なアドバイスを与えることができるようにする。すなわち、健康障害があっても、その影響をできるだけ少なくするにはたらきかける際の専門的判断の構築に役立つことを意図する。	
		英語講読	(概要) 英文で書かれた看護の専門誌・論文を講読する力を養うことを目的とする。そのために、一般の新聞、雑誌を読みながら、文法の解説も加えて基礎読解力を高めたうえで、専門誌の看護の英語論文を講読する。	

専門科目	基盤看護学分野	基盤看護学特論Ⅰ	(概要) 基盤看護学特論Ⅰでは、看護の基盤となる理論・方法論について、教育・管理・実践を沖縄のケアリング文化に根ざした視点とグローバルな視点から探究する。この科目には看護教育学、看護技術学、看護管理学、国際看護学の専門領域があり、探究したい専門領域を選択する。 看護教育学領域では、看護教育の歴史と制度、ならびに看護教育における基礎理論、方法論を修得する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。看護職における継続教育の現状と課題、キャリア開発支援について理解を深め、看護職への教育のあり方についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探究する。 看護管理学領域では、保健・医療・福祉を取り巻く環境について概観し、看護サービスおよび看護管理のあり方を探究する。具体的には、質の高い看護実践を推進するために必要なヘルスケア組織および看護管理の基礎理論および看護管理プロセスを理解し、効果的な看護管理のあり方を探究する。 看護技術学領域では、看護ケアの本質を踏まえ、ケア技術を構成する要素を抽出し、その理論的背景および質の高い看護実践を推進するための看護技術について探究する。 国際看護学領域では、異文化や多様な社会構造などをキーワードとして、今後の看護にも必要とされる国際的な視野、適応力、判断力、研究方法論などについて、探究する。	
		基盤看護学特論Ⅱ	(概要) 基盤看護学特論Ⅱでは、看護の基盤となる理論・方法論を踏まえ、沖縄のケアリング文化に根ざした視点とグローバルな視点から根拠のある看護実践を探究する。この科目には看護教育学、看護技術学、看護管理学、国際看護学の専門領域があり、探究したい専門領域を選択する。 看護教育学領域では、教育学および看護教育学の理論を適用した看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育プログラムの編成・運用の実際と看護学教育活動の展開を学修する。看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な継続教育を実施していくための知識や理論・技術を学修する。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、看護基礎教育において到達すべき看護実践能力、継続教育におけるキャリア開発について探究する。 看護管理学領域では、日本における看護管理・看護サービスの制度政策を多角的取り上げ、看護と社会システムの関係について探索する。また、看護実践現場における課題把握と解決、イノベ	

専門科目	基盤看護学分野	基盤看護学特論Ⅱ ーションのために必要とされる方法論を探究する。 看護技術学領域では、看護技術学に関する先行研究についてクリティックし、看護技術研究の課題と展望を考察する。さらに、看護実践現場における課題把握と解決のために必要とされる看護技術の在り様を探究する。 国際看護学領域では、世界の国々の看護・保健医療福祉事情を理解するために、さまざまな国々において活躍している看護・保健医療福祉分野の実践家及び研究者により各国の文化の紹介と看護医療福祉とその実践について探究する。	
	臨床看護学分野	臨床看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅰでは、沖縄のケアリング文化を基盤とし、様々な健康レベルにある人を対象に健康増進および疾病予防、あるいは死に臨む人々のケアに関する理論・方法論を探究する。この科目には慢性期看護学、急性期看護学、がん看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、病態生理学の専門領域があり、探究したい専門領域を選択する。 慢性期看護学領域では、慢性期疾患を疫学的に概観し、ライフサイクル・ライフタスクとの関係を理解する。さらに、セルフケアの構築に向けた行動理論等、慢性疾患を病む人および家族に必要なケアに関する理論・方法論を探究する。 急性期看護学領域では、急性期疾患を疫学的に概観し、ライフサイクル・ライフタスクとの関係を理解する。急性期病態患者・家族の特質から、医療選択における意思決定について考案する。また、脳死判定や臓器移植などを踏まえ、多角的に倫理的課題を抽出し、これからの急性期看護に関する理論・方法論を探究する。 がん看護学領域では、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアおよび沖縄のケアリング文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探究する。 高齢者看護学領域では、老年期の発達理論を踏まえ、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活への影響について探究する。また、少子高齢化の国内外の高齢者をとりまく様々な状況を理解し、複雑で多様な健康障害をもつ高齢者の健康と生活の質を高めるための援助について、文献抄読、事例検討などを通して検討し探究する。 母性看護学領域では、母性看護学の対象である将来出産を迎える思春期女性、妊産褥婦、更年期女性等の特性と健康課題を理解する。女性の健康課題を解決するための理論や方法論について、文献・事例検討を通して探究する。 小児看護学領域では、子どもとその家族が置かれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について探究し、子どもの生きる権	

専門科目	臨床看護学分野	臨床看護学特論 I	利の擁護に関する課題と方法について探究する。また、関連領域の研究のクリティークを行い、小児看護学領域の研究の動向と課題を探究する。 <u>精神看護学領域では、精神看護学の実践の基礎となる対象理解のための基礎理論を学ぶ。精神の機能状態の評価方法について学び、看護介入の基本として、精神状態のアセスメント技術と対人関係技術を習得する。合わせて精神的健康に関する知識およびライフサイクルにおける対象者の心理・社会的問題、危機的状況における看護アセスメントについて学ぶ。</u> <u>在宅看護学領域では、在宅看護学活用される理論や看護モデルを学び、看護実践に活用する方法を学ぶ。在宅での生活（暮らし）を支援する看護の役割と福祉の連携を目指し、社会福祉の立場からの地域在宅看護学への課題を探究する。</u> <u>公衆衛生看護学領域では、個人・家族・集団・地域の健康レベル向上に関わる看護の理論および方法、保健医療福祉の連携とシステム化、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策化等について探究する。</u> <u>病態生理学領域では、医療及び福祉介護の現場で日常遭遇することの多い代表的な疾患あるいは病態の成因や仕組みに関する基礎的事項及び最新の知見を概説する。実務に役立つように知識を整理して理解してもらうことを目標とする。</u>	
		臨床看護学特論 II	(概要) 臨床看護学特論 II では、沖縄のケアリング文化を基盤とし、様々な健康レベルにある人を対象に健康増進および疾病予防、あるいは死に臨む人々のケアに関して、<u>根拠のある看護実践を探究</u>する。この科目には慢性期看護学、急性期看護学、がん看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、病態生理学の専門領域があり、探究したい専門領域を選択する。 <u>慢性期看護学領域では、慢性疾患を病む人と家族の反応や療養行動特性、生活に及ぼす影響と社会心理的要因を理解し、国内外の先行研究を踏まえ根拠のある看護実践を探究する。さらに、慢性期看護領域に求められる援助方法と課題解決のための方略を探究する。</u> <u>急性期看護学領域では、危機的な状況にある人を総合的に捉え、衝撃的な体験に際し人間の反応や回復過程を理解し、衝撃的な体験からの立ち直りを促進させる援助、専門的な支援法を学修する。また、衝撃的な体験者の家族に対する支援方法について探究し、根拠のある看護実践を探究する。</u> <u>がん看護学領域では、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族への看護支援の現状と課題を幅広く理解し、全人的ケアおよび沖縄のケアリング文化に根ざした根拠のあるがん看護実践を探究する。さらに、がん対策基本法をはじ</u>	

専門科目	臨床看護学分野	臨床看護学特論Ⅱ め国の施策と動向および社会的ニーズを踏まえ、がん看護領域に求められる援助方法と課題解決のための方略を探究する。 <u>高齢者看護学領域では</u>、加齢や障害により複雑で多様な健康障害を持つ高齢者の人生の最終段階が健康的に過ごせるように、生活の質を維持・向上を支援するケアについて探究する。また、家族・ケアスタッフ、社会システムの課題を検討しケアシステムの在り方を探究する。 <u>母性看護学領域では</u>、臨床看護学特論Ⅰの母性看護学の対象に対する理論や方法論を踏まえ、根拠に基づいた効果的な看護実践を探究する。また、沖縄県のケアリング文化に根ざした地域における母子保健の課題、妊娠前から出産後まで継続した支援システムについて探究する。 <u>小児看護学領域では</u>、小児看護がもつさまざまな課題を広い視野から理解し、子どもとその家族の健康保持・増進のための援助の方向性について、講義と演習を通して探究する。また、小児看護の諸側面における適切な援助方法を探究し、その効果を査定する能力を修得する。 入院児の生活支援について、特に入院児の発達支援としての遊びや教育の視点を重視し、入院児の教育保障や医療保育の基本的な考え方を導入して検討する。 また、医療的ケアを必要とする子どもの援助、障害児のケア、被災児とその家族の支援や災害看護における具体的な支援について検討する。そのうえで、小児看護に必要な援助方法とその評価について探究する。 <u>精神看護学領域では</u>、現在の精神保健医療福祉の動向と社会的ニーズを踏まえ、精神的健康問題を抱える人、その家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を講義と演習を通して探究する。また、この過程において患者の人権を擁護するための倫理的判断能力を培う。 <u>在宅看護学領域では</u>、沖縄県の在宅療養の現状と課題について学び、在宅老所や在宅のターミナルケアについての援助の方法について探究する。また、沖縄北部の地域特性や終末期の在宅看護の実際を学び、倫理的判断、臨床判断に基づき、健康課題を解決するための看護実践を探究する。 <u>公衆衛生看護学では</u>、臨床看護学特論Ⅰの公衆衛生看護学で学んだ理論と方法、保健医療福祉の連携とシステム化、社会資源開発と施策化等を文献検討し、公衆衛生看護実践例の現状・課題の分析を踏まえ、看護実践を探究する。 <u>病態生理学領域では</u>、臨床看護学特論Ⅰの病態生理学で学んだ知識を基盤として興味ある国内外の症例報告を基に病態について考察し、時間軸から病態の推移を分析できる能力を培う。分析の結果から導かれる看護への応用について学ぶ。さらに、探究した	
------	---------	--	--

専門科目	学分野 臨床看護	臨床看護学特論Ⅱ	課題をレポートにまとめ看護指導者としての教授方法を実践により修得する。	
演習・研究科目		専門演習	(概要) 各分野の研究の動向を踏まえ、学生の関心あるテーマに即した研究を進めるための方法を学ぶ。具体的には、国内外の論文のクリティークを重ねて、研究課題を絞り込み、適切な研究方法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮などを学習し、研究計画書を作成する。	
		特別研究	(概要) 専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。具体的には、倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察などの中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションを行う。	

I
関教
務・履
修
内
容
に

II
資

料

III
関学
す生
る生
内活
容に

IV
諸
規
則

V
授履
業
科
目
修
の
概
要
等

VI
1そ
看護学
研究科
教員名
簿他

VI
2そ
建
物
配
置
図他